

JRほすびたる

大腸がん検診と 内視鏡検査

【消化器内科 横山 大】



2020年に同様のタイトルで寄稿させていただきました。この数年でがんを取り巻く状況はあまり大きな変化はなく、日本の主要死因第1位となっております¹⁾。加齢による影響を除外した年齢調整死亡率では減少傾向ではありますが第1位であることに変わりはありません。

消化器病学会雑誌に「大腸がん検診の現状と課題」と題して優れた論文が掲載されましたので一部紹介させていただきます²⁾。

日本における大腸がん検診は免疫便潜血検査によって行われ、陽性者に対して大腸内視鏡検査を勧めていくようになってきました。これは他国においても同様に行われており、米国、韓国では内視鏡検査を検診に積極的に取り入れる対策を行ったことで大腸がん死亡率が低下したことが示されています。日本も同様に低下傾向ではありますが、下がり方は緩やかであり、他の2国に比べて高い水準にあります。現状として、大腸がん検診受診率が低いこと、陽性者の精検受診率も低いことが問題となっています。

検診として大腸内視鏡検査を施行した場合の有効性については国内でも検証がされており、免疫便潜血検査に比べて高い大腸がん発見率を示しています。また、大腸内視鏡検査のメリットはがん発見だけではなく前がん病変とされる腺腫性ポリープを検出できることにあり、男性では50歳以上、女性では60歳以上で多く発見されました。内視鏡的にポリープ切除を行った場合、大腸がん罹患率減少効果が89%になるという報告もされています³⁾。このように大腸内視鏡検査のメリットは明らかですが、検査のための準備が大変であること(状況によっては体調を崩してしまうこともあります)、内視鏡検査可能なキャパシティにも限りがあることが問題となります。現実的に検診と同様に大腸内視鏡検査を行っていくことは困難で、受けるべき年代、間隔などについては定まっていません。

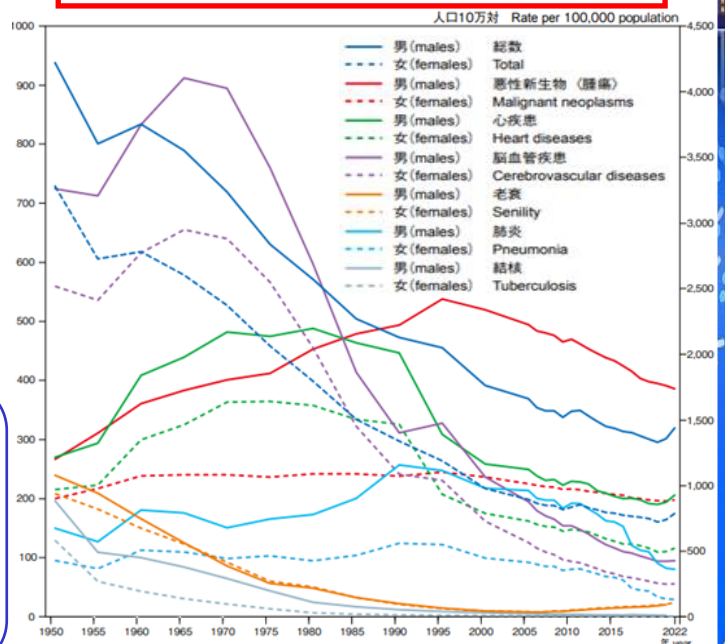
個人的には大腸ポリープを切除することによる大腸がん発生の減少効果に期待しています。50歳以上でこれまで大腸内視鏡検査を受けたことがない方、とくに過去に一度でも便潜血検査陽性となったことがある方はこの機会に検査を受けてみてはいかがでしょうか。



参考論文

- 1) 国立がん研究センターがん情報サービス. 最新がん統計. Available at : https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html
- 2) 松田尚久, 関口正宇, 小林 望: 大腸がん検診の現状と課題—対策型検診への大腸内視鏡検査導入に向けて— 松田尚久. 日消誌 121;177—185:2024
- 3) Sano Y, Hotta K, Matsuda T, et al : Japan Polyp Study Workgroup. Endoscopic Removal of Premalignant Lesions Reduces Long-Term Colorectal Cancer Risk : Results From the Japan Polyp Study. Clin Gastroenterol Hepatol S1542-3565(23) 00588-8 : 2023

主要死因別年齢調整死亡率年次推移 (1950年~2022年)
Trends in Age-adjusted Mortality Rate for Leading Causes of Death (1950-2022)



出典:『がんの統計2024』公益財団法人 がん研究振興財団



筋トレでどうなる？採血データ

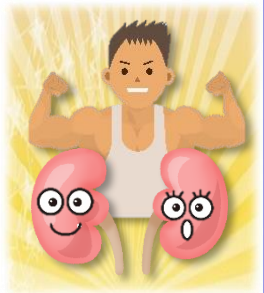


筋トレブームといわれる昨今、知っておきたい筋トレと血液検査の関係についてお話します。人間ドックや健康診断での異常値に筋トレが関与している場合があります。その代表的な項目は **CK** です。CK は筋肉に多く含まれる酵素であるため、過度な運動により筋肉がダメージを受けると心筋梗塞などの疾患がなくても上昇します。また筋トレは腎臓の働きを示す**クレアチニン**の数値にも影響を及ぼすことがあります。クレアチニンは筋肉で働くクレアチンが分解されてできる老廃物で、腎臓の糸球体という器官で濾過され尿となって排出されますが、腎機能が低下すると血中に増加してしまいます。プロテインを飲んだりお肉を食べたりして多くのたんぱく質を摂取し、トレーニングに励むと筋肉モリモリとなりますが、筋肉量が増えればクレアチニンの数値も高くなります。さらにたんぱく質をたくさん摂ることによって**尿素窒素**の値も高くなります。

クレアチニンは筋肉量に関係するため性別や年齢によって正常値は異なります。そのため性別や年齢を考慮し腎臓の状態を知る指標として **eGFR**(推算糸球体濾過量)が用いられます。eGFR はクレアチニンの値をもとに算出され 60 以上が正常値となります。筋トレをされている方で腎臓の数値が気になっている方、筋肉量の影響を受けない検査方法があります。その検査名は**シスタチン C** です。筋肉量に影響するクレアチニンに対しシスタチン C は筋肉量の影響を受けません。よって血液中のシスタチン C を測定し、その値をもとに eGFR を算出することで筋肉量の影響を受けることのない腎機能の評価ができます。

かつてクレアチニンで算出した eGFR が「56」で、腎臓の働きが良好ではないと思っていた筆者でしたが、シスタチン C を測定し算出したところ eGFR は「99」で腎機能は全く問題ありませんでした。筋トレをされている方もそうでない方も、腎臓等の数値に不安のある方はぜひ一度当院へご相談ください。

【臨床検査科 高橋 文隆】



JR 仙台病院 「地域連携のつどい」開催報告

6月21日ホテルメトロポリタン仙台において「地域連携のつどい」を開催しました。当院としては5年ぶりとなる開催に、県内の医師、医療機関・施設等の関係者の方々110名が参加され、医療講演では循環器内科 湊谷医師、内科 突田医師、放射線科 松橋医師の講演を聴講いただきました。懇親会では各診療科、部署からの紹介等を行い、更なる連携を深める機会となりました。



『火災総合訓練』実施



7月12日火災総合訓練が行われました。火災発生時には迅速な対応が求められます。そのため火災発生時に備え、エアストレッチャーの使用方法や屋内消火栓・消火器の放水手順等を学びました。



院内コンサート 開催

第33回

みいつけた!! 秋の楽しみコンサート

開催日時 8月29日 木 14:30~

開催場所 JR仙台病院1階エントランスホール

宮下 尊太郎
ヴァイオリン
きょうゆうプロジェクト

田原 さえ
ピアノ/MIKIS

着任のご挨拶

昨年まで約10年間、福島県で急性期病院やクリニックで勤務しておりました。これまでとは異なる環境に早く慣れ地域に密着した医療・看護を学び、即戦力として活躍できるよう日々努力して参ります。よろしくお願ひ致します。

看護部 消化器内科



さいとう あやか
齊藤 彩花

出身地: 福島県
趣味: 食べ歩き
特技: リフティング